



Bank of Japan Fukushima Branch

福島県金融経済概況 (2023年2月分※)

【概況】

県内景気は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響が和らいでおり、基調としては緩やかに持ち直している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐ中、持ち直している。住宅投資は、減少している。設備投資は、増加している。公共投資は、下げ止まっている。

鉱工業生産は、半導体不足の影響が和らいでいるものの、世界的な販売不振に伴うスマートフォン・パソコン向けの減産がみられており、持ち直しの動きが足踏みしている。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症や物価上昇による個人消費への影響、海外経済の動向が生産面に与える影響、また雇用・所得の動向に注意していく必要がある。

※ 直近までに入手可能な金融経済統計およびヒアリング情報をもとに、県内の金融経済動向を取り纏め。

【前回からの基調の変化】

総括	個人消費	住宅投資	設備投資	公共投資	生産	雇用・所得
↓	→	→	→	→	↓	→

(注)

- ↑ : 前回から改善度合いが強まっている、もしくは悪化度合いが弱まっている。
- : 前回から変化なし。
- ↓ : 前回から改善度合いが弱まっている、もしくは悪化度合いが強まっている。

【本件に関する問い合わせ先】

日本銀行 福島支店 総務課
TEL:024-521-6353

本資料は、ホームページ
(<https://www3.boj.or.jp/fukushima/>)
にも掲載しています。



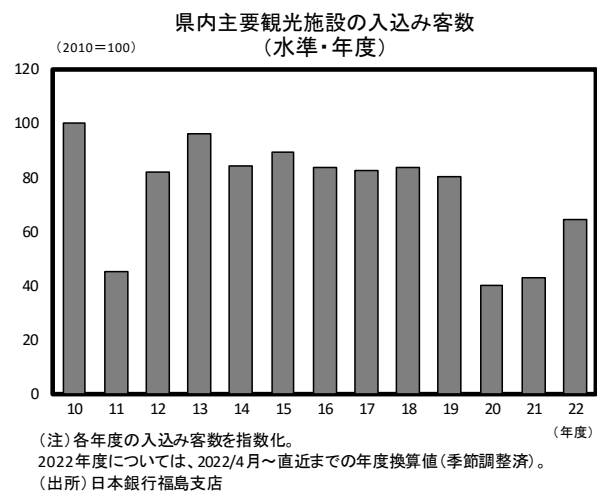
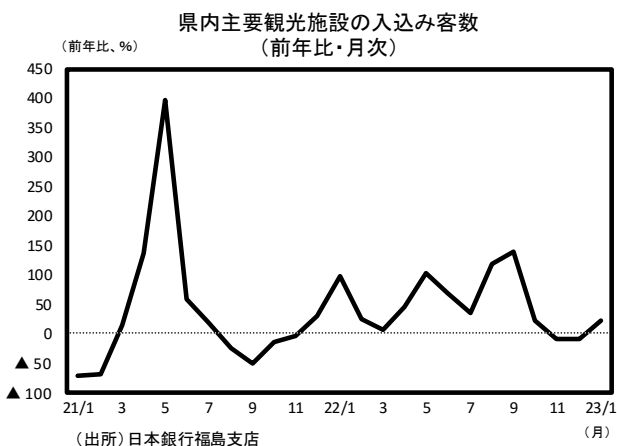
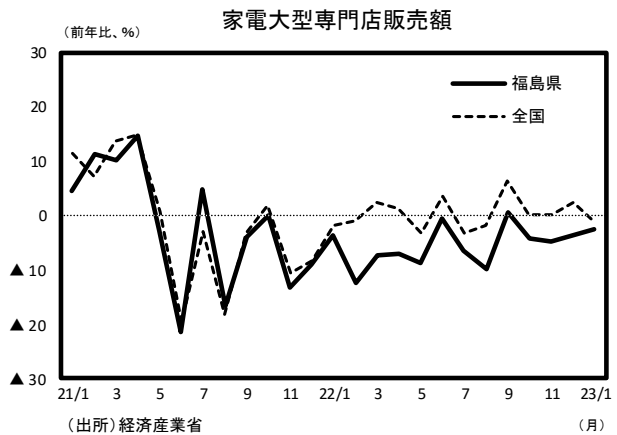
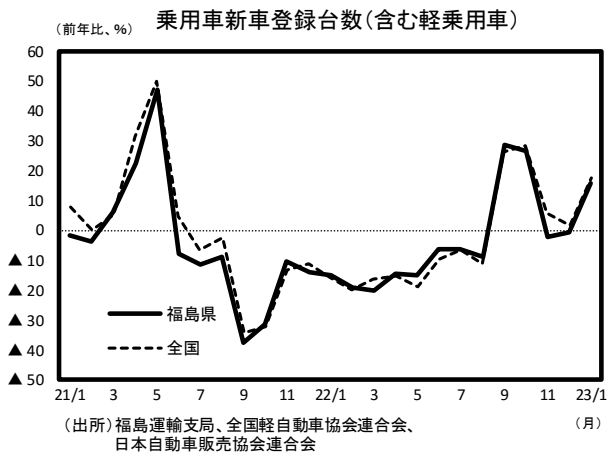
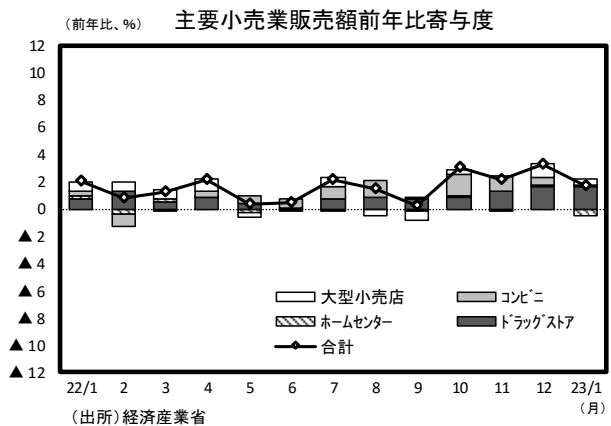
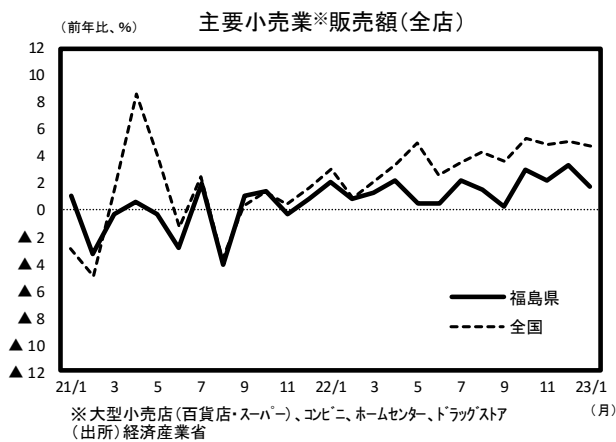
1. 需要項目別の動向

【個人消費】

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐ中、持ち直している。

主要小売業販売額（1月）、乗用車新車登録台数（1月）は、前年を上回った。家電大型専門店販売額（1月）は、前年を下回った。この間、外食や旅行等のサービス消費は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐ中、持ち直している。

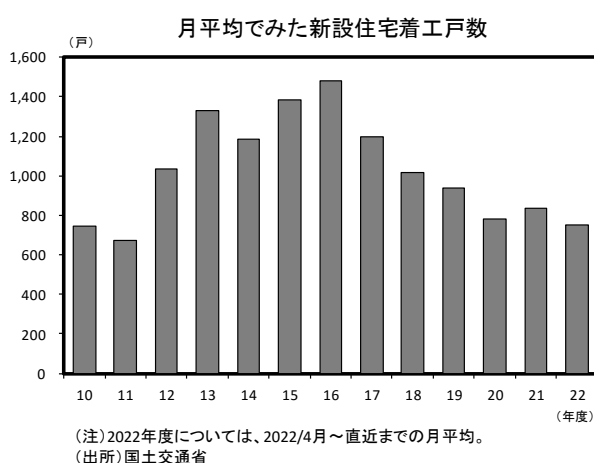
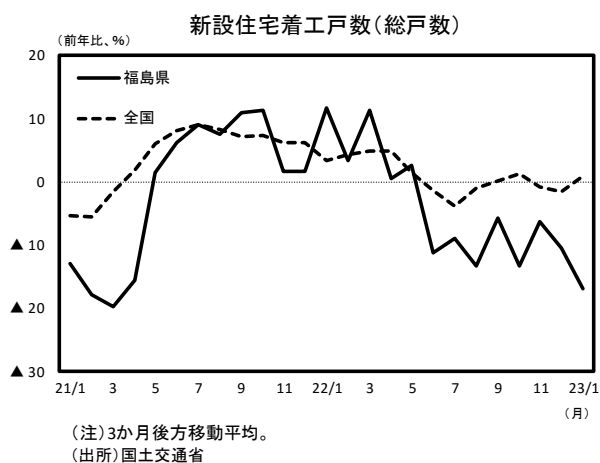
県内主要観光施設や宿泊施設への入込みは、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐ中、緩やかに回復している。



【住宅投資】

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数（1月<3か月後方移動平均>）は、前年を下回った。

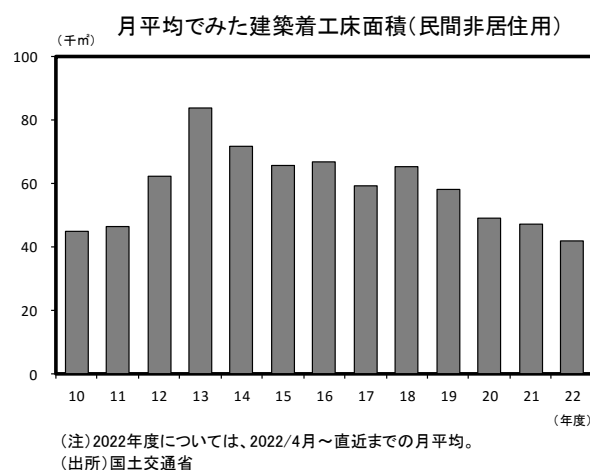
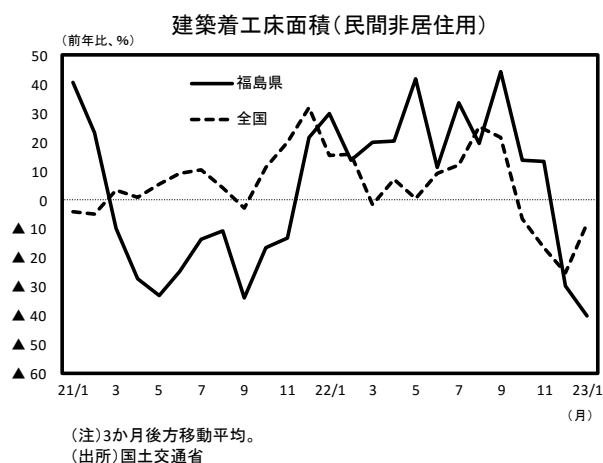


【設備投資】

設備投資は、増加している。

12月短観における県内企業の2022年度設備投資計画は、前年度を上回っている。製造業では、能力増強投資などの増加から、前年度を上回っている。非製造業では、エネルギー価格の上昇を受けて投資を先送りする動きがあるものの、資材や設備の価格上昇による投資額の増加がみられており、前年度を上回っている。

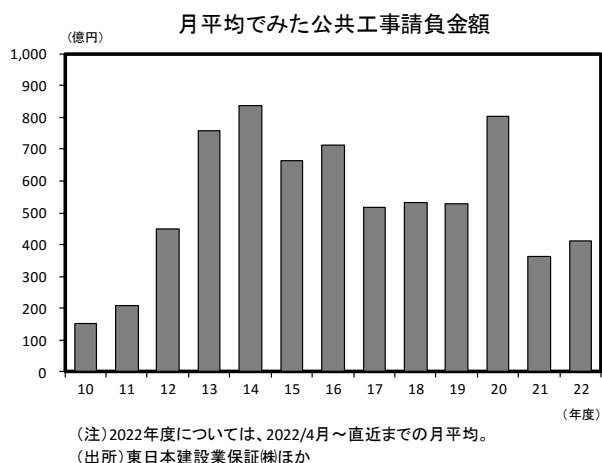
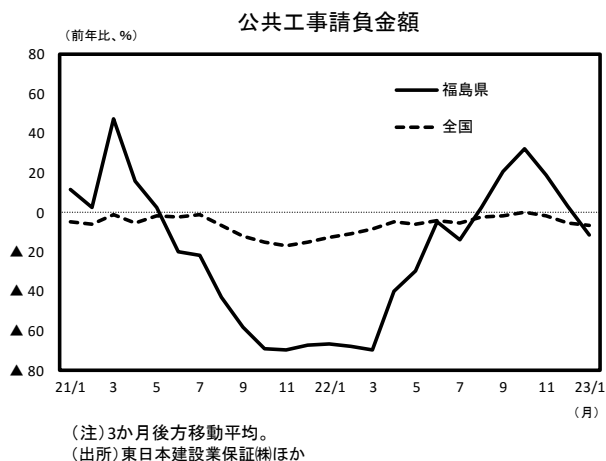
建築着工床面積（民間非居住用）（1月<3か月後方移動平均>）は、前年を下回った。



【公共投資】

公共投資は、下げ止まっている。

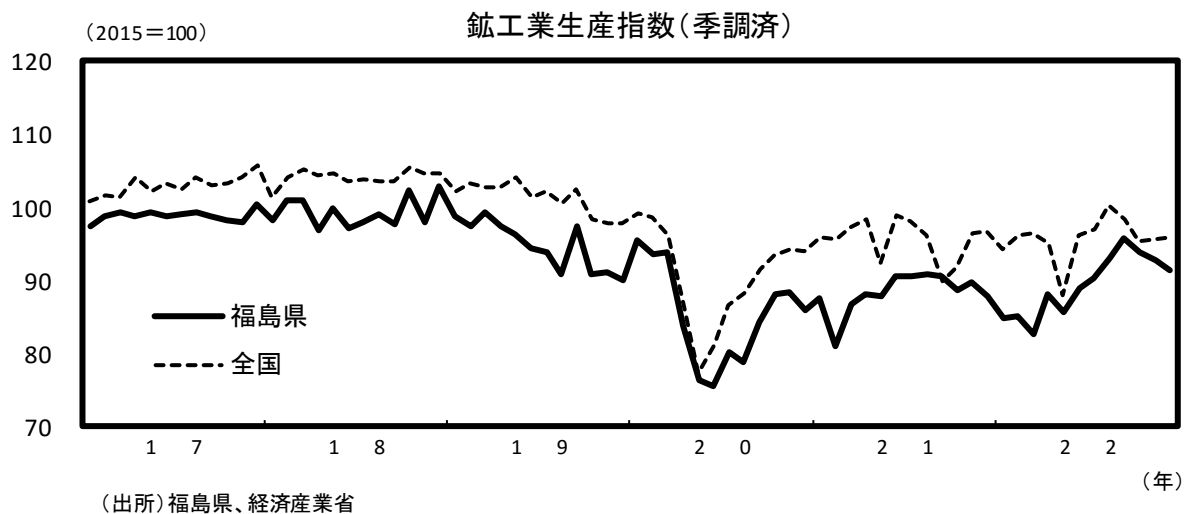
公共工事請負金額（1月<3か月後方移動平均>）は、前年を下回った。



2. 生産動向

鉱工業生産は、半導体不足の影響が和らいでいるものの、世界的な販売不振に伴うスマートフォン・パソコン向けの減産がみられており、持ち直しの動きが足踏みしている。

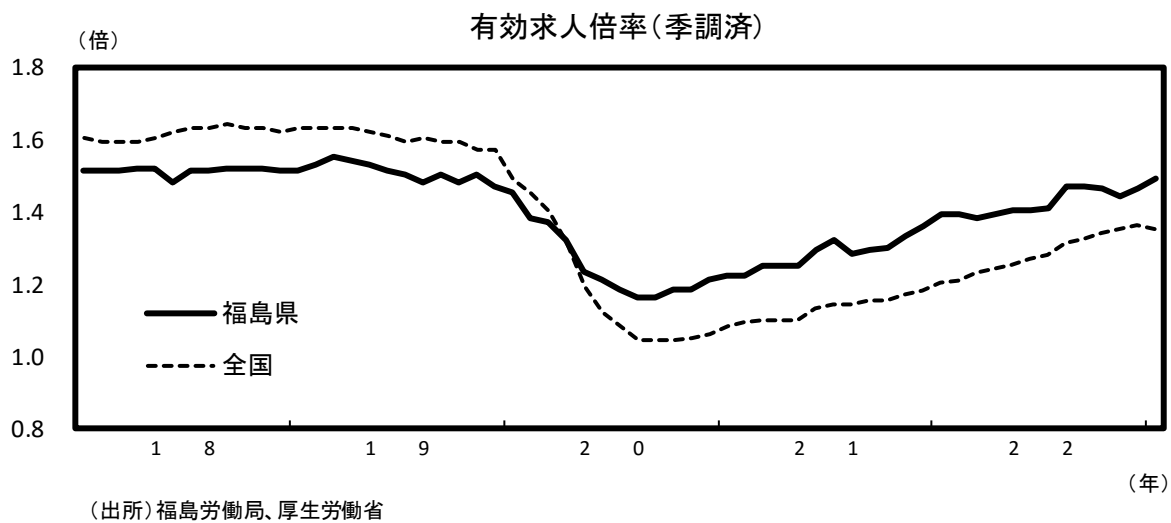
鉱工業生産指数（12月）を主な業種別にみると、情報通信機械、汎用・生産用・業務用機械は上昇した一方、電子部品・デバイス、輸送機械、化学は低下した。



3. 雇用・所得

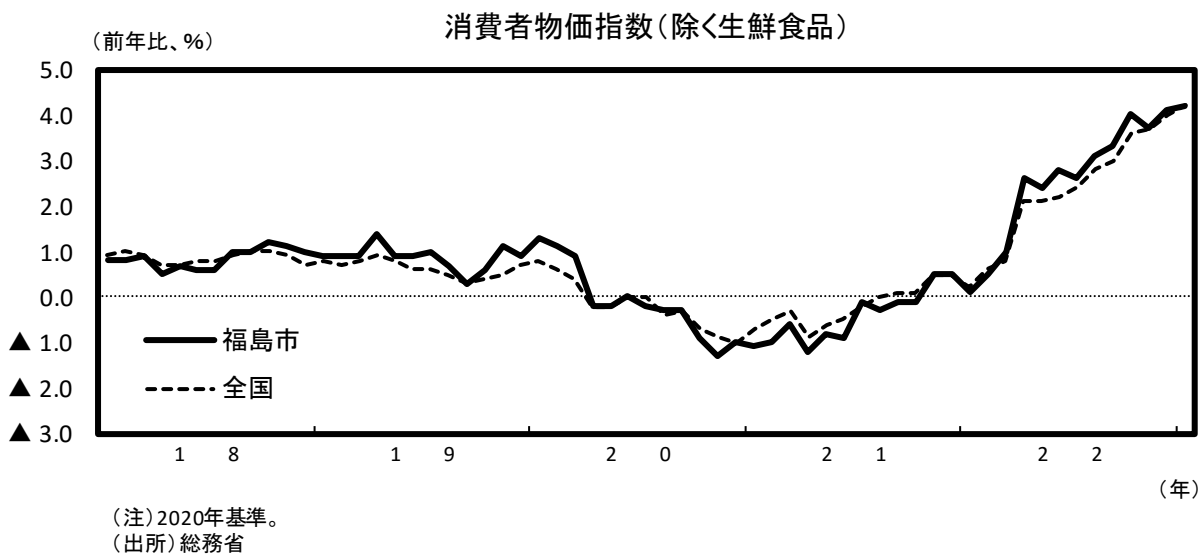
雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

有効求人倍率（1月）は、上昇した。



4. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品）（1月）は、前年を上回った。



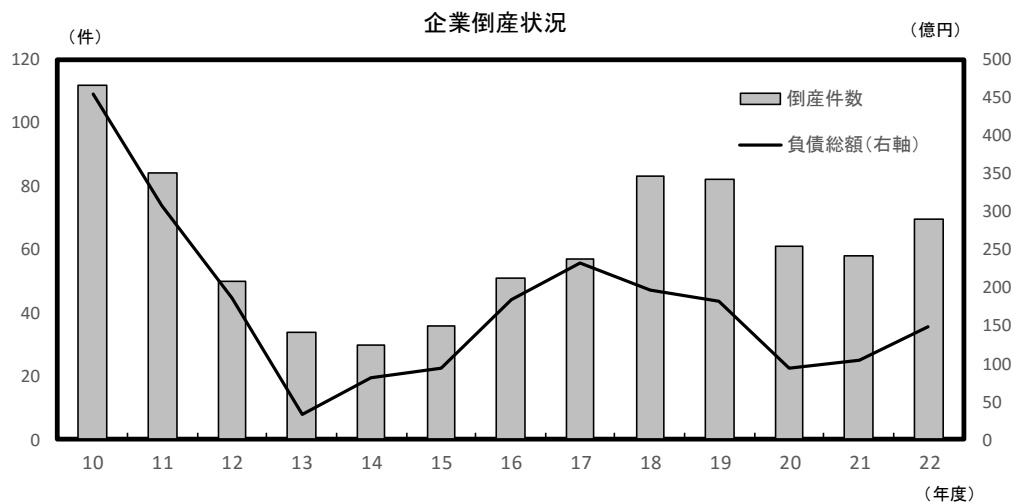
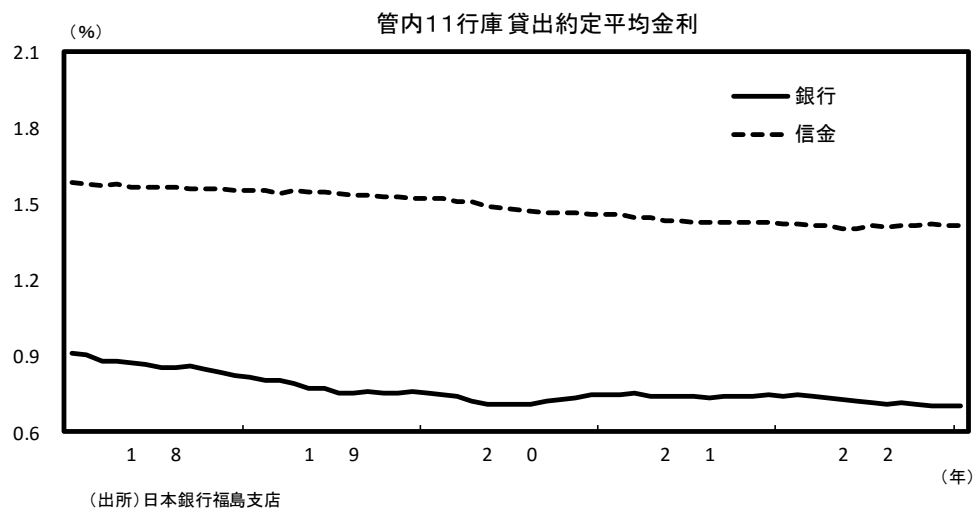
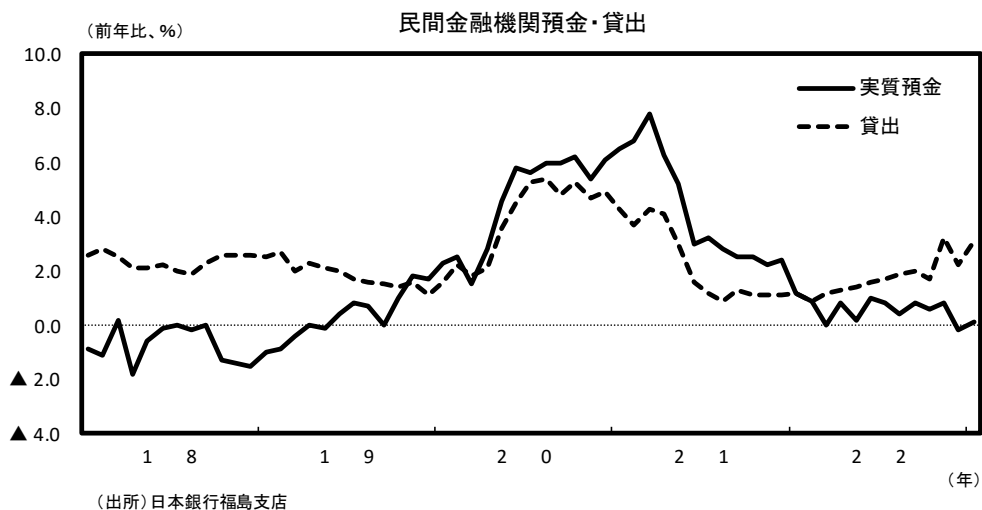
5. 金融情勢

実質預金は、前年を上回った。

貸出は、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

企業倒産は、低水準ながら、幾分増加している。



以上